

### 3 震度階級と建物被害

気象庁震度階級関連解説表によると、震度階級と建物被害の関連はおおむね下表のようになるものと想定されています。

この表は、ある震度が観測された際に発生する被害の中で、比較的多く見られるものを記述しており、

これより大きな被害が発生したり、逆に小さな被害にとどまる場合もあります。

なお、この表は主に近年発生した被害地震の事例から作成したものです。

は市内で想定される震度です。

震度階級	木造建物(住宅)	
	耐震性が高い	耐震性が低い
5弱	—	壁などに軽微なひび割れ・亀裂がみられることがある。
5強	—	壁などにひび割れ・亀裂がみられることがある。
6弱	壁などに軽微なひび割れ・亀裂がみられることがある。	壁などのひび割れ・亀裂が多くなる。壁などに大きなひび割れ・亀裂が入ることがある。瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。
6強	壁などにひび割れ・亀裂がみられることがある。	壁などに大きなひび割れ・亀裂が入るものが多くなる。傾くものや、倒れるものが多くなる。
7	壁などのひび割れ・亀裂が多くなる。まれに傾くことがある。	傾くものや、倒れるものがさらに多くなる。

(注1) 木造建物(住宅)の耐震性により2つに区分けした。耐震性は、一般的に建築年代の新しいものほど高い傾向があり、概ね昭和56年(1981年)以前は耐震性が低く、昭和57年(1982年)以降には耐震性が高い傾向がある。

(注2) この表における木造の壁のひび割れ、亀裂、損壊は、土壁(割り竹下地)、モルタル仕上壁(ラス、金網下地を含む)を想定している。下地の弱い壁は、建物の変形が少ない状況でも、モルタル等が剥離し、落下しやすくなる。

資料出所:「気象庁震度階級関連解説表」(平成21年3月31日改定)

### 4 建物の耐震化が重要

#### 木造住宅の耐震診断

木造住宅の耐震性は、主に3つのチェックポイントがあるとされています。

- 1 新耐震設計基準(昭和56年施行)に基づき設計されているか。
- 2 住宅が過去に大きな災害に見舞われたことがあるか。
- 3 住宅の構造、平面形状、偏って大きな窓がたくさんあるなど、耐震に関して基本的な住宅の性質に問題がないか。

耐震性の判断には建築の専門知識が要求されません。目立った症状が無くても、耐震診断を受けることが重要です。

木造住宅については、手軽に自分でできる「誰でもできるわが家の耐震診断」が財団法人日本建築防災協会から提供されていますので、一度使われてみてはいかがでしょうか。

(<http://www.kenchiku-bosai.or.jp/wagayare/wagayare.pdf>)

ひび割れ・亀裂



傾く



倒れる



接図例

1	3	5	7
2	4	6	8

資料出所:内閣府「防災情報のページ」